

# 第8回、第9回検討会を踏まえた今後の対応(案)について



阿賀野川河川事務所

令和2年2月



## ■ご意見および今後の対応（案）

### 第8回検討会でのご意見および今後の対応（案）について

回	ご意見	今後の対応（案）	備考
第8回 (H31.2)	<p>&lt;早出川&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水制設置後の変化は、室内実験及び予測計算の研究成果とかなり一致している。ただし、研究成果でも予想されたとおり、水制上流端は、上流砂州の影響を受けるので、早出川でも三本木大橋下流の中州が延びてきている。モニタリングを継続して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備後3ヵ年、詳細モニタリングを実施したことにより、整備効果が概ね把握できたと考えている。</li> <li>今後は簡易調査に移行することとし、三本木大橋下流地区については、定期横断測量に合わせた測量を、善願橋下流地区については、令和2年度に測量及び河川水辺の国勢調査（魚類）の調査を実施する。</li> </ul>	

### 第9回検討会でのご意見および今後の対応（案）について

回	ご意見	今後の対応（案）	備考
第9回 (R1.11)	<p>&lt;小阿賀樋門魚道&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>魚道は大型魚だけではなく、小型魚も対象にしないのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小阿賀樋門で大型魚、満願寺閘門で小型魚を、との区分を考えている。</li> <li>アユ等の小型魚は、遡上を支援する自動開閉機能を満願寺閘門に追加し（H27）、遡上効果も確認済みである（H29）。</li> <li>なお、魚道については、モニタリングによりデータを収集し、より最適な設置条件を検討していきたい。</li> </ul>	
	<p>&lt;早出川&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外来種の侵入は、自然現象として一部やむを得ないと思われる。外来種対策は、自然再生とは別の角度で取り組むべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外来種は、状況把握が重要であるため、引き続き河川水辺の国勢調査による監視を継続する。</li> </ul>	

## ■その他のご意見および質疑

### <第8回検討会（H31.2）>

#### 1. 整備状況報告

- ・焼山ワンドについて、導水工事時に設置した上流側の工事用水路は、水質がきれいなため、存置してはどうか。  
また、周辺のヨシは極力残すようにしてほしい。  
→工事用水路の残置を検討する（事務局）

#### 2. 拡縮流路に関する研究報告（安田委員）

- ・拡縮工法で、ワンドの再生は可能か？  
→水制下流端の下流側に追加設置することで、ワンド形成を促進させられるかもしれない。（委員）

#### 3. その他

- ・NPO 法人五泉市トゲソの会では、市内生息場でのトゲソが急減していることから、早出川への移植を検討している。  
→適地を判断するための環境調査を実施する。（事務局）

### <第9回検討会（R1.11）>

#### 1. 令和元年度モニタリング調査結果（速報）等について

##### ①焼山地区

- ・本川合流部を、もう少し広げてはどうか。また、今後の管理はどのようにしていくか。  
→整備直後であるため、まずは、河床堆積物や測量等のモニタリングを実施し状況を把握したい。今後の管理は、当初のねらいと現状にかい離があれば原因を整理した上で、方針を提示したい。（事務局）

##### ②ワンド

- ・ワンド地形は、UAV 撮影では水位により形状が違って見えるため、河床高を定期的に計測するのがよい。  
→今後、経過観察のために測量を実施していきたい。（事務局）

##### ③早出川

- ・事前予測どおりの河床変化が得られており、環境面でも魚類種数が増えるなど効果が得られているといえる。
- ・モニタリング項目については、横断測量と水位観測という現在の項目で十分である。  
→河川水辺の国勢調査の結果を含めて、今後、総合的に考察したい。（事務局）

・直線区間と湾曲区間との間は未整備であり、“中抜け”のようになっているので、連続して整備できると、より有効性が確認できるだろう。

・NPO 法人五泉トゲソの会では、重要種トゲソの保全活動を実施しているが、堤内地には適地がないため、かつて確認もあった早出川への再導入を検討している。協力をお願いしたい。

→今後の再生計画見直しの中で、早出川の環境復元を考えてみたい。(事務局)

・魚類調査結果では、個体数を示すべき。また、種数については、外来種も含まれるため適切に評価すべき。

→河川水辺の国勢調査の結果等と比較するなどして、評価したい。(事務局)

#### ④水ヶ曾根地区砂礫河原再生

・評価では、「器（うつわ）」の変化を継続的に把握することが重要である。大規模出水が発生した場合は、平面形状も含めて計測するとよい。

→今回 ICT 施工を適用しており、整備直後の形状が把握できている。次回の検討会で、今回出水を受けた結果を報告する。(事務局)

## 2. 阿賀野川自然再生計画変更に向けて

・かつては、川から田んぼに魚がのぼり育っていた。連続性の再生は是非進めるべき。

・次期計画の目標である、トキやハクチョウを指標とする環境の再生は、適切と考える。

・浅場・中州の再生にあたっては、特に、沢海床固より上流については、断面形状だけではなく平面形状を考慮し検討すること。ただし感潮区間は、整備しやすいと考えられる。また、拡縮工法は大きな河川でも適用できそうとの研究結果も得ているため、協力もしたい。

→検討にあたっては、水理解析モデル等を用い検討する。大河川であり、効果予測と異なる反応をすることも考えられるため、時間をかけて工法を検討していきたい。(事務局)

・激甚災害が増えており、今後の川づくりでは、防災面のかわづくりと環境面の川づくりを面的に包み込む必要がある。阿賀野川では、“環境が沈むところを防災でくい止める”といったかわづくりを実施していきたい。

→自然再生計画の変更については、本検討会でご意見を頂きつつ進めていきたい。早出川での環境復元も、実施できる場所があれば検討したい。(事務局)